

吉樂株式会社

シルクスクリーン製版システム導入による高速化及び歩留まり改善事業

簡便な製版方法を軸とした設備では高付加価値品の加工は難しく、外注の製版では時間的な問題が発生します。我々の最大の競争力である「即応力」と「技術力」を活かすためにダイレクト製版システムを設備投資し、高品質短納期体制を確立します。

■ 代表者	代表取締役社長 吉樂 貴之	■ 所在地	〒612-8487 京都市伏見区羽束師菱川町430-10
■ 設 立	平成20年9月1日 法人設立 平成29年3月30日	■ TEL/FAX	TEL. 075-874-4567 FAX. 075-874-4568
■ 資本金	3,000千円	■ URL	http://www.yoshiraku.jp/
■ 従業員数	14人	■ E-mail	meet@yoshiraku.jp
■ 業 種	繊維工業		



目的、取組のきっかけ

◆ 当社の経緯

当社は、染色加工業を営む父親から、平成20年に個人事業にて独立し、高級婦人用アパレル向けのプリント加工を中心に事業を行い、プリント技術の蓄積を行いました。その後、高級婦人向けの受注を増やしましたが、アパレル業界は流行の影響を受けやすく、特にヤングカジュアル向けやプレタポルテゾーンは流行の需要変動が大きく、アパレル市場の低下減少も見られました。更にリーマンショックや東日本大震災の影響もあり、新規事業への転換を模索し始めました。

当社のこれまで培ってきた繊細なプリント加工技術をベースに小ロット・短納期対応に取り組み、イベント用のウェアやグッズ、子供向けのユニフォームのプリント等を中心に事業転換を行いました。

◆ ものづくり補助金申請するきっかけ

小ロット・短納期対応を実現するための当初の課題は、外注で行っていた製版の納期対応にあり、サーマルプリンター製版機の導入で自社一貫した生産体制を整えました。その結果、お客様からの受注が増加し生産能力の増強が必要となりました。

当時の実力から増産体制の投資計画の実行は、補助金を活用できればできると確信してスタートしました。平成24年度補正のものづくり補助金を活用した「自走式ヒーター付高速捺染設備の導入」でプリント能力を倍増することができ、更に当社の強みを高める製版能力の増強に、二回目の補助金を活用しました。

取組内容

◆ 当社の経営課題

当社の最大の強みは、高級ブランドのプリント加工で培ったもので、「繊細な加工」「難加工素材へのプリント」

「プリント表現の限界点の拡張等の技術の高さ」「商品の扱いが丁寧で仕上がりがきれいなこと」であり、お客様からも評価頂いています。その発注元からの紹介やリピートオーダー等の波及効果で、年々多様化・高度化するプリントのお客様要求事項を満足するためには、ボトルネック工程である製版工程を改善することが最優先課題となっていました。

◆ 当社の製版技術

当社の製版はサーマルプリンター製版と乳剤製版の2種類がありましたが、下記の問題点がありました。

①サーマルプリンター製版の問題点

- ・耐久性に問題があり、再使用が出来ない
- ・繊細な表現やキリッとした線の表現が難しい
- ・凹凸のある素材に対応しにくい

②乳剤製版の問題点

- ・紗（スクリーン）の張替えが外注となる
- ・熟練職人による張合わせなど「手作業」が必要
- ・外注加工を含めて製版完了まで時間を要す

当社にとっては「技術力＝プリント品質」が生命線で、納期対応のため品質を落とすことは出来ません。最悪の場合は失注につながる状況でした。

◆ ものづくり補助金事業での設備導入

①ダイレクト製版システムの導入

ダイレクト製版は従来のようにフィルムを使用せずに直接コンピューターから出力するため細線や網点の再現性が高く、時間も短くて済みます。また、フィルム代が必要なく熟練職人による張合わせ作業も必要が無くなり、不良率の改善効果も期待できます。それにより、「プリント品質」と「即応力」を同時に満たすことが可能となりました。



ダイレクト製版機

企業概要

当社は、繊維加工業を営む実家から平成20年に個人事業として独立し、平成29年に法人設定。高級婦人服の加工でプリント技術を磨き、高度なプリント技術、即能力を強みに、多岐にわたる素材、材料、資材、技術を組み合わせることで多種多様なニーズに対応します。

主要製品

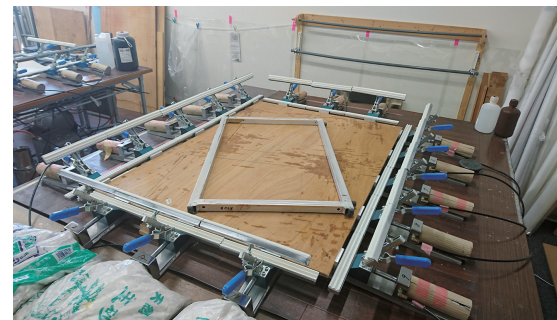
- ・各種プリントウェア、各種販促名入れ商品、ご朱印帳、ウチワ、扇子、フェイスシール
- ・各種印刷加工油性・水性シルクスクリーンプリント、インクジェット加工、転写、パッド印刷
- ・各種雑貨



②付属設備の導入

新規の製版を行うためには製版枠への紗の張替えを外注していましたが、短納期化とコスト削減のため自社で張替えを行うため紗張りシステムを導入しました。

製版工程は、紗のプリント部分の乳液を洗い落とした後に製版枠の乾燥を行う必要があります。現行設備では、乾燥能力が低く乾燥能力を上げるために製版枠乾燥機の導入も行いました。

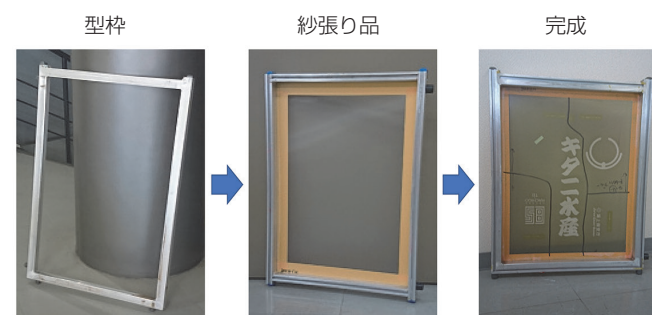


紗張りシステムと製版枠

成果と今後の展開

◆ 即納力とプリント品質の実現

小ロット加工については、プリント加工だけで高収益を得るのは難しく、製版でも利益を得る必要がありました。ものづくり補助金を活用して製版工程を強化することで、



シルクスクリーン完成までの流れ

主要取引先

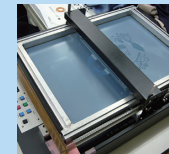
- ・衣料雑貨販売会社：プラスワンインターナショナル
- ・衣料メーカー：(株) ボンマックス、広洋物産 (株)
- ・雑貨メーカー：新日本カレンダー (株)

主な保有設備

ダイレクト製版機、サーマルプリンター製版機
インクジェットプリンター
製版枠乾燥機、紗張りシステム
自走式ヒーター付き高速捺染設備



自走式ヒーター付き高速捺染設備



サーマルプリンター製版機



製版枠乾燥機

これまで以上の品質レベルを実現するとともに、更なる即納力及びコスト削減が実現しました。また、リピートオーダーによる製版枠の再利用も可能になりました。これにより売上及び利益が順調に伸び、平成29年には「吉樂株式会社」として法人化するまでに至りました。

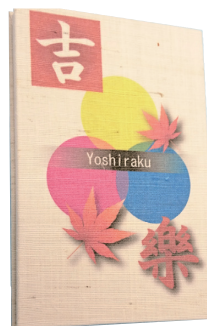
◆ 社内体制の強化

当社は、「若い世代の活躍の場を提供し、ものづくりの夢を現実に叶えていける職場にしていきたい」という考えが有ります。従来の職人仕事を新たな設備を使った手法に変革する場合の難しさもありましたが、「補助金で認められ評価された事業であること」に従業員と共有することで進めることができました。今では、熟練職人が、空いた時間で若手職員や新人の育成を行うとともに、新しい素材やプリント技術を有する難しい加工の対応を行っております。また、ダイレクト製版機の導入によりデータ修正作業が増加するため、画像ソフトウェアを扱える女性従業員を採用し、現在は、製版工程のコアの部分を担当しています。

◆ 今後の展開

昨年には、インクジェットプリンターを導入し、凹凸の大きい部位や素材にも加工することが可能となり、従来のスクリーン印刷との複合加工を行うことで、衣料へのプリントだけでなく、紙製品など幅広い素材や様々な商品へのプリント加工にも力を入れて「加工の幅」を広げています。

更に、加工受託だけではなく、素材やプリント技術の提案をしてお客様の要求を引き出し、企画からかわる事業を広げていきたいと考えています。上述のような強みである加工を活かしたものづくりと販売を実現すべく進めています。



御朱印帳